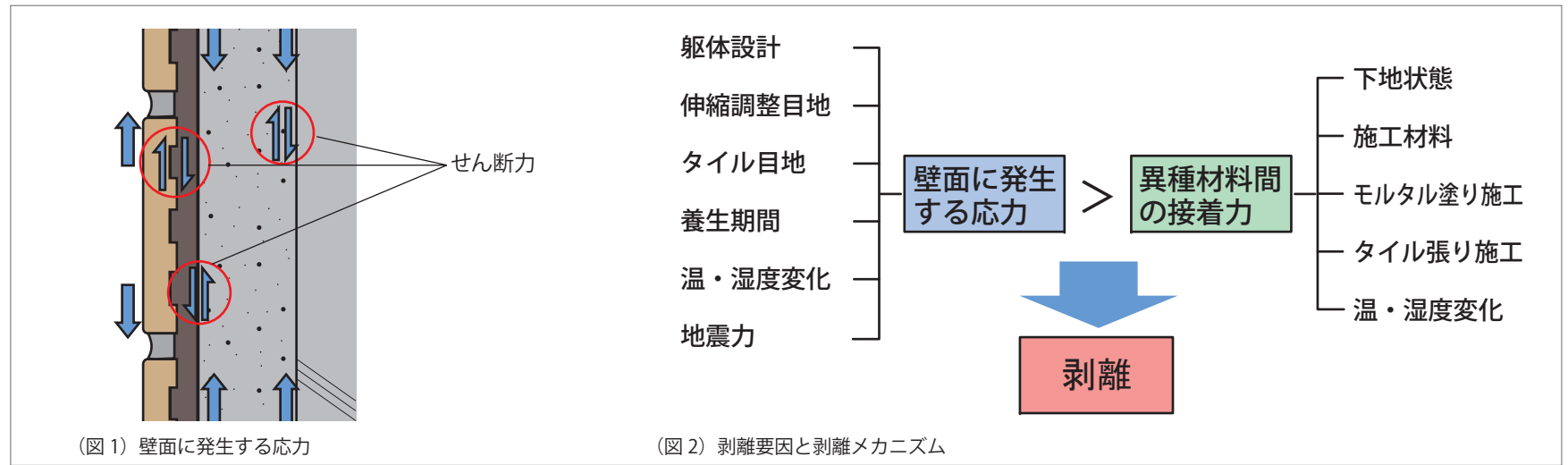


後張り工法の剥離防止

タイル張り壁面には、温度変化、乾燥・湿潤といった環境の変化などにより応力（図1）が発生し、この応力が壁面を構成する材料間の接着強さを上回るような状況になると、剥離（図2）が生じます。

したがって、剥離防止には、

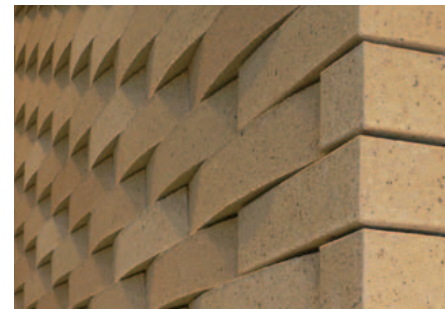
- ①壁面に発生する応力を抑制すること
- ②壁面に発生する応力を上回る接着力を確保することが必要です。



1 壁面に発生する応力を抑制する剥離防止工法では「弾性接着剤張り」を推奨します。

弾性接着剤層でコンクリートやモルタルの乾燥収縮や温度変化によるタイルや下地の動きを吸収し、タイル張り面に発生する応力を大幅に抑制して剥離を防止することができます。

旧建設省の官民連帯共同研究の成果により、採用物件が増加し、平成18年にJIS A5557:2006（外装タイル張り用有機質接着剤）が制定されました。この工法により、モルタル施工の場合には厳禁であった深目地施工、細目地施工も可能となり、新しいデザインのタイル張りが可能となりました。



細目地デザイン



はるかべ工法専用接着剤 ワンパックボーイ R-V2 スーパー

2 壁面に発生する応力を上回る接着力を確保する工法では「高圧水洗・超高压水洗による目荒らし工法」と「MCR工法」を推奨します。

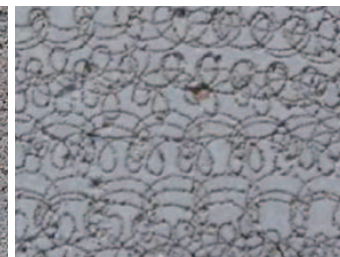
50MPa（高圧）～150MPa（超高压）の高圧水により、コンクリート表面を目荒しする方法とMCRKシートによりコンクリート表面に凹凸を付与して接着力を高める方法が剥離防止に有効です。



超高压水洗目荒らし工事



高圧水洗・超高压水洗によるコンクリート表面

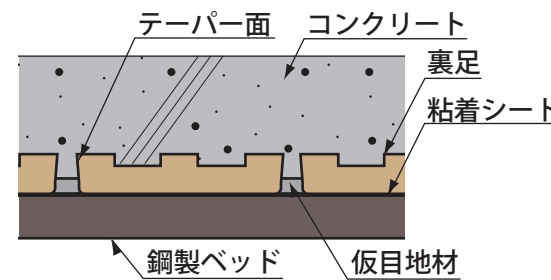


MCR工法によるコンクリート表面

PC板先付け工法の剥離防止

PC板先付け工法は安全性の高い工法ですが、さらに安全性を高めたウェッジタイルシステムを開発しました。

ウェッジタイルシステムは、側面にテーパの付いたウェッジタイルと流動性の高いコンクリートを組み合わせることにより、PC工場での打ち込み不良をなくすと同時に、タイルの目地にくさび効果をもたせて、万が一タイルが浮いたとしても剥落を防止する安全な工法です。



ウェッジタイルシステムの概要



ウェッジタイルのくさび効果



ウェッジタイル施工例

- 記載の商品写真は印刷のため実際の色とは多少の差があります。現物またはサンプルなどにてご確認ください。
- 事例写真のため、廃盤品も含まれている場合がありますのでご了承ください。
- 掲載内容及び写真・図版の無断転載はかたくお断りします。（許可なく転載・流用した場合、損害賠償が発生します。）
- 仕様・価格は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。